

柏崎刈羽原発 Q&A

Q1. 原発を稼働させないと電気は足りないのですか？

A. いいえ。原発を稼働させなくても電気は十分に足りています。

一年で最も電気を必要とする季節は夏です。しかし、新潟でも東京でも原発を稼働せずに猛暑の夏を乗り切りました。今後も原発なしで電気は十分に足りるのです。(2012年、東電最大使用時余力…13.6%)

Q2. 原発を動かさないと電気料金を値上げしなければいけないのでは？

A. いいえ。原発は実はコストが高く、原発をやめれば逆に電気料金は下がるとの試算がなされています。

原発は立地自治体への交付金や使用済み核燃料の処理費用などを加算すると実は最もコストの高い発電方法なのです。「原発を動かさないと値上げしなければならない」ということに根拠はありません。不当な値上げにも反対しましょう。

Q3. 柏崎刈羽原発は安全ですか？

A. いいえ。安全ではありません。むしろ危険度の極めて高い原発です。

日本は地震大国であり、全国どこでも地震が起きる可能性が高い国です。その中でも柏崎刈羽原発周辺は活断層が存在し、地盤調査でも非常に緩い地盤との報告がなされており、とても危険な場所に建っています。さらに中越沖地震で3700か所にもおよぶ損傷を受けており、超党派の国会議員で結成された『原発ゼロの会』で、「即廃炉にすべき原発24基」の中に柏崎刈羽原発の全号基は指定されています。

Q4. では誰の為に原発が動かされようとしているのでしょうか？

A. 「原子カムラ」のためです。

原発が無くても電気は足りていて、原発はコストが高くて、そして原発は非常に危険なものであり、一般市民にとっては、何の得もありません。原発は、全て「原子カムラ」の利権のためなのです。

Q5. 「原子カムラ」とは何ですか？

A. 原発利権をめぐる「政治家」「官僚」「財界」「御用学者」そして「マスコミ」の共同体です。(これに「司法(裁判所)」が加わるとも言われています)

この「原子カムラ」が利権を得るためだけに原発は稼働され、学者やマスコミも支配されており、正しい情報が市民に伝わらない仕組みになっています。

Q6. 原発をやめたら立地地域の雇用が失われるのでは？

A. いいえ。原発をやめても雇用は失われません。廃炉産業や新規のエネルギー産業が栄えるからです。

原発を廃炉にするには何十年の歳月と人とお金が必要です。また、原発に代わる電力供給のために様々な発電所が作られる必要が出てきます。ですので原発が停止の状態よりも「廃炉」の方が雇用が生まれます。立地地域は原発マネーで立てられた巨大施設の維持費で財政もひっ迫しており、そして何より事故が起きた時に最も危険な地域です。立地地域こそ原発からの離脱と新産業への転換が求められています。

Q7. しかし、再生可能エネルギーが普及するまでは原発に頼らなければいけないのでは？

A. いいえ。再生可能エネルギーを普及させる前に、まずはクリーンで資源の豊富なガスコンバインドに移行し、その後徐々に再生可能エネルギーに転換していけば即廃炉は無理なく可能です。

ガスコンバインドはエネルギー効率が原発の2倍、建設費用が原発の4分の1、CO2の排出も少なく、燃料であるガスは400年分の埋蔵量があると言われていています。欧米ではいち早く取り入れられており、「ガスコンバインドを中心にして、太陽光や小水力(ダムを使わない水力発電)も利用していく」という考えが浸透してきています。

つなげよう脱原発の輪 上越の会
お問合せ 090-4962-9633 (植木)